

写真家・森山大道氏のアーティスト・トークが盛況

3月14日、町文化ギャラリーで写真家、森山大道氏を迎えてアーティスト・トーク&サイン会が開かれました。



2月19日から1カ月間同ギャラリーで開いた同氏の写真展に合わせて来町しました。会場は道内各地からプロやアマチュアの写真家、ファンらが大勢詰め掛けました。

1978（昭和53）年、40歳の時に道内を撮影取材した時の白黒写真作品を中心にした作品展です。今回展を中心にして、写真撮影への姿勢や作品作りなどに触れました。

「北海道を撮った時代は、撮りながら気持ちはいつも前のめりにつんのめ

っていた。撮っても撮っても、決定的瞬間を撮ったと思えないから、いらいらする。だから前に、前に、と思っていた」「若いころは水平線が斜めになっている、とよく言われていた。自分の場合ちよつと斜めに撮る。さらにノーファイナダーだ

からどう撮っているのか自分にも分からない。ほとんどは意識的にそうやってしまう」などとエピソードを交えて話していました。

サイン会では、札幌市内から来たというファンは、学校に新蔵書となった写真集を持参して来場し、サインを書いてもらった本を大事そうに抱えて感

天人峡温泉で恒例の全日本下の句歌留多大会開く

3月6日、天人峡温泉の天人峡パークホテルで全日本下の句歌留多協会主催の第55回全日本下の句歌留多（かるた）大会が開かれました。

稚内、別海、室蘭など道内各地からA級、B級に66チーム約300人が出場しました。

午後9時、大広間、中広間の2会場でB級勝ち抜き戦から試合開始。出場チームは年齢に関係なく、百人一首の和歌読みに合わせて、3人1チームで下の句を書いた木札を取り合います。試合に勝ち抜くと、わずかな休憩を挟んで決勝戦まで夜通しでコマを進め、最後の1戦は翌朝昼過ぎまで続く



熱い戦いの連続。外はまだ真冬の寒さ。しかし会場は出場選手の熱気がむんむん。読み手が上の句から読み始めたら、抑揚の違いをいち早く聞き分け、いかに早く敵陣まで手を伸ばして下の句の木札を取るか、で勝負が決まります。盤上では、狙い澄ましたひと札を取れたときなど、盤上をたたく音高く、気合の掛け声が会場いっぱいあちこちで響きわたりました。成績結果は次のとおり。

- ▼A級 優勝北見聖林②旭川 赤翼松③稚内北都、小樽潮
- ▼B級 優勝深川北陽（初）
- ②岩見沢梅が枝③旭川赤翼翼 同乙女

「ももんが森の大きな木」で幼児センター園児が卒園記念のプレート付け

3月17日、3月末で幼児センターを卒園した年長児71人の園児たちが、自分の名前を書いた木製のこの葉のプレートを「ももんが森の大きな木」に取り付けました。

卒園記念として今年から始めました。園内に登場した木工クラフトの壁面レ

リーフが取り付けた場所。木の葉のプレートに一人ひとり自分の名前を書き、「せんせい、これで大丈夫？」と確かめながら、大きな木の葉つぼとしてレリーフに取り付けました。レリーフの大きさは床面から高さ90



6年後子供たちが小学校を卒業する時一人ひとりの大切な「時の思い出」として受け取る予定です。

日赤スキーパトロール競技会で救急救助技術を競う

3月7日、今シーズンの営業最終日となったキトウシスキービルツジで、日本赤十字社北海道支部が第38回北海道赤十字スキーパトロール競技大会を開きました。



全道の日赤スキーパトロール員が集まって救急救助技術を競う大会。救急救助技術を高めるため、道内のスキー場持ち回りで大会を開いています。ここキトウシスキー場での開催は11年ぶり2回目。

4人1組のチームでゲレンデで足を骨折したスキーヤーを救急処置して搬送する処置の的確さ、スピード、的確なチームワークなどを「救急法実技」「アキヤ（救急搬送用ボート）操作技術」「総合技術競技」の3競技で競いました。

けが人のチェック、身元の確認、骨折所の固定など応急処置をし、旗門をクリアしながらゲレンデから連携してけが人を運び、タイムの早さを競います。

中には、気がはやるあまり先導者が

先に滑り降りてしまったり、ボートが旗門に引っかかってしまうなど、訓練成果を披露しきれないチームも。競技会ならではの難しさにてこずったようでした。日赤スキーパトロール員は、道内約50カ所に約1千人の登録があるそうです。キトウシスキー場の日赤パトロール員も旭川パトロール赤十字奉仕団に加盟しています。

街なか活性化協議会が提言

3月3日、街なか活性化推進協議会（藤田裕三会長）は松岡市郎町長に「東川町街なか活性化基本計画」を提言しました。

町内中心市街地の活性化に向けて、昨年町が策定した「プライムタウン作り計画（21-1）」に基づいて田園小都市を目指すうえで、「市街地整備改善」「商業の活性化」「街なか居住の促進」「多様な主体の参加」などを実

第一回「ササノエピアノ・コンサート」久元祐子さんの出演

2月21日、町は小西健二音楽堂で東京在住のピアニスト、久元祐子さんのソロコンサートを開きました。



同音楽堂にあるベーゼンドルファー社製（オーストリア）ピアノの美しい音色を多くの町民に聞いてもらおうという企画の室内コンサート初回演奏会、初回出演した久元さんは、昨年12月に続いたの演奏です。前回は、たまたま個人旅行で本町を訪れ、要望に応じてプライベートでミニコンサートを開きました。

久元さんは同社創業期のピアノ（1

868年スイス・ウィーン製）や約200年前の歴史的ピアノ楽器などを複数所有し、歴史的な楽器を使用した演奏や録音なども数多いそうです。モーツァルト、ショパンなど当時の作曲家の音楽研究著書も数多く、この日は全曲ショパンの作品で、代表作「ノクターン変ホ長調作品9の2」「幻想即興曲嬰ハ短調作品66」「子犬のワルツ」や「ノクターン嬰ハ単調遺作」など15曲あまりを演奏しました。

現する仕掛け、仕組み作りが必要、としています。そのため目標として①訪れたくなるまち②住みたくなるまち③歩きたくなるまち④参加したくなるまちを目指しています。

町など関係機関、団体は、提言を受けて本年度街なか活性化の実施計画を策定する予定です。そ



の後国の地域商店街活性化法に基づく商店街活性化事業を進めたいと考えて、東川町商工会（藤田裕三会長）が中心となって計画具体化の各種事業を進めることを想定しています。

同協議会は2004（平成16）年1月に町内委員25人で発足、延べ27回協議しました。